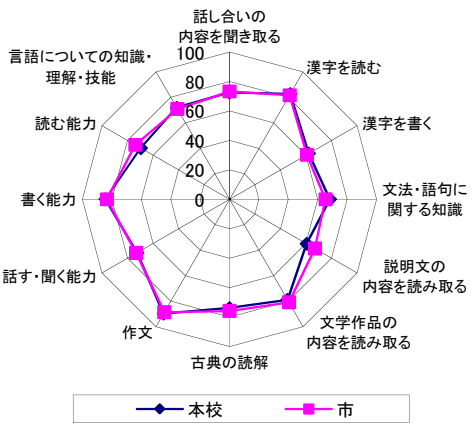
宇都宮市立旭中学校 第２学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	72.6	73.3
	漢字を読む	82.6	81.5
	漢字を書く	62.2	60.6
	文法・語句に関する知識	68.2	65.2
	説明文の内容を読み取る	60.4	66.9
	文学作品の内容を読み取る	78.8	80.9
	古典の読解	73.8	76.0
	作文	89.7	88.6
観点別	話す・聞く能力	72.6	73.3
	書く能力	84.4	83.4
	読む能力	69.6	73.9
	言語についての知識・理解・技能	71.9	70.9



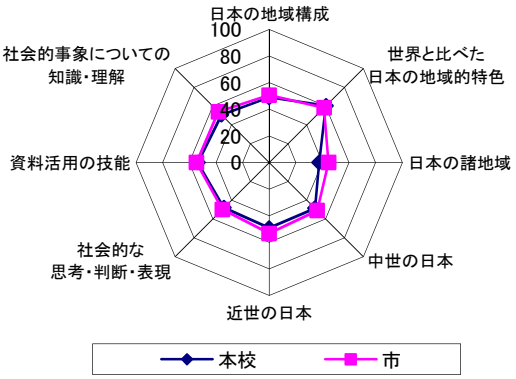
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	全体としては、72．6%の正答率で、市平均を0．7ポイント下回っている。特に、「司会者の工夫を聞き取る」問題は、市の平均を2．4ポイント下回った。	授業でも、引き続き、聞き取りテストを行い、メモを取りながら聞くことに慣れさせたい。話の要点をつかむだけでなく、設問に答える練習もしていきたい。
漢字	漢字の読みの正答率は、82．6%で、市平均より、0．9ポイント上回っている。ほかの3題はわずかに市平均を下回ったが、「おか」の読みが平均を8．4ポイント上回った。 漢字の書きの正答率は、62．2%で、市平均より、 1．6ポイント上回っている。	漢字テストを実施するだけでなく、授業で間違えやすい漢字を取り上げ、漢字に対する興味を高めていきたい。
文法・語句に関する知識	正答率は68．2%で、市平均より3．0ポイント上回っている。「対義語」についての問題は市の平均を1．0ポイント下回っている。	文法については折に触れて復習していきたい。また、授業の中で出てきた言葉の、対義語・類義語などを取り上げたりして、語彙を増やすようにしていきたい。
説明文の内容を読み取る	正答率は60．4%と、市平均を6．5ポイント下回っている。特に「文章の内容を捉えて具体的な事例に当てはめる」問題では、10ポイントほど下回っている。	筆者の話の展開を理解していく際に、段落どうしの関係・接続詞などを意識しながら読ませるようにしたい。さらに、例示された事実が、どんな意見のためのものかも考えさせたい。
文学作品の内容を読み取る	正答率は78．8%と、市平均より2．1ポイント下回っている。心情をとらえる問題の正答率は市を上回ったものの、心情の変化をとらえる問題について4．5ポイント下回っている。	記述に沿って、登場人物ごとの心情表現、行為、場面の変化及び、語句や情景描写にも注意しながら、その移り変わりについても、読み取らせていきたい。ある気持ちがどのように変わっていくか、表現を比較しながら追っていくようにしたい。
古典の読解	73．8%の正答率で、市の平均正答率を2．2ポイント下回っている。部分を読み取る問題では、市の平均をわずかに上回った。文章の内容全体を読み取る問題では、市の平均を5．4ポイント下回った。	声に出して何度も読み、古典に対しての抵抗感を減らしていきたい。暗唱なども取り入れながら、古典に興味を持たせ、内容理解にもつなげたい。
作文	正答率は89．7%で、市平均より1．1ポイント上回っている。段落構成や字数など、すべての項目について市の平均を少しずつではあるが、上回っている。	授業の中で字数指定だけでなく、何段落構成で、といった条件をつけて書かせる機会も設けたい。根拠を明確に、などと目的を絞って書かせ、意欲を持たせたい。特に文章全体を要約する演習を積むことも、記述力の向上につながると考える。

宇都宮市立旭中学校 第２学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	48.9	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	60.3	58.2
	日本の諸地域	37.5	44.6
	中世の日本	48.6	51.0
	近世の日本	49.1	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	48.0	49.8
	資料活用の技能	53.5	54.7
	社会的事象についての知識・理解	50.7	53.9



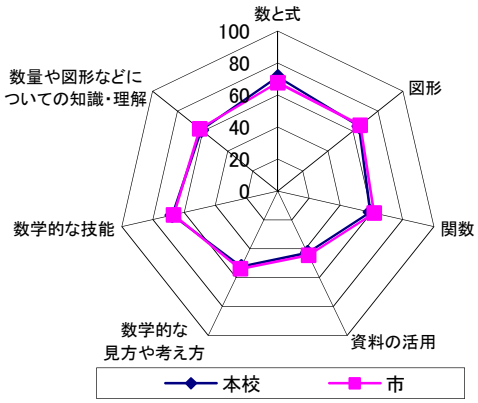
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の地域構成	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を1．8ポイント下回った。 ・特にキャンベラを中心とした正距方位図法の地図上で、日本のおおよその国土の位置を読み取る問題で正答率が低かった。	・地球儀と平面地図を見比べさたり，様々な資料を用いて学習課題を解決させたりして，地球の姿を様々な角度から見させる演習を増やしていきたい。
	世界と比べた日本の地域的特色	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2．1ポイント上回った。 ・8問中6問は市の平均を上回った。日本の過疎地域の理解と、日本国内の時間距離の変化についての資料の読み取りで正答率が低かった。	・過疎地域が生じる背景や，国内の交通網の発達についてフォローアップ問題を活用して再確認させたい。
	日本の諸地域	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を7．1ポイント下回った。 ・特に日本の各地域の家の工夫について考えさせる問題で正答率が低かった。。	・ICT教材を活用し、視覚的に自然環境と暮らしの関わりをとらえる学習を取り入れたい。
歴史	中世の日本	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2．4ポイント下回った。 ・東山文化や永仁の徳政令の出された背景については市の平均を上回った。日明貿易や中世の出来事の大まかな流れをとらえる問題で正答率が低かった。	・今まで以上に単元のはじめと終わりに時代を大きな流れでとらえていく学習で学習形態を工夫しながら行いたい。
	近世の日本	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を4．2ポイント下回った。 ・鉄砲伝来や織田信長の宗教政策、武家諸法度、大阪の繁栄の理由などは市の平均を上回った。豊臣秀吉の太閤検地や江戸時代の農村の貨幣経済の発達に関する問題で正答率が低かった。	・各時代の経済活動についてまとめさせる中で，多面的・多角的に検討させる学習を取り入れたい。

宇都宮市立旭中学校 第２学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	71.3	67.7
	図形	64.9	65.9
	関数	59.2	61.7
	資料の活用	42.8	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	52.4	53.9
	数学的な技能	67.6	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	61.0	62.3



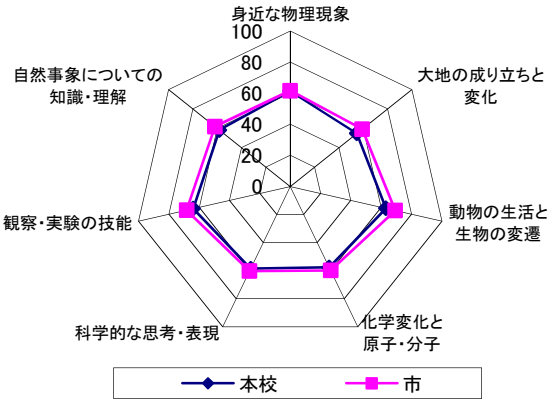
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と本校を比較した場合，３．６ポイント上回っている。 ・文字式の計算の正答率が高い。しかし，連立方程式を代入法で解く問題の正答率は市より低い。	・現在取り組んでいる計算ドリルを今後も継続することにより，計算力を高めていく。 ・連立方程式の計算問題を苦手とする生徒が多いため，今後は反復練習を行うことにより，計算のやり方を徹底的に身につけさせていく。特に等式の変形を活用する問題を多く使い，基礎的な内容の定着を図るためにも，補助教材等を有効的に活用していく。
図形	・宇都宮市と本校を比較した場合，１．０ポイント下回っている。 ・多角形に内角や外角の和についての正答率は比較的高いが，作図問題の正答率は市より低い。	・平面図形における知識は身に付いているため，その活用能力を高める問題を使い，問題解決過程を大切に指導していきたい。 ・証明問題を解くときにも，コンパス・定規を使い，正確に作図させる時間を確保する。
関数	・宇都宮市と本校を比較した場合，２．５ポイント下回っている。 ・グラフから直線の式を求める問題の正答率は高いが，グラフを正確にかくことは市より低い。	・１次関数の特徴を理解させ，１次関数のグラフをしっかりとかかせたい。さらに関数関係を使った問題の解決にグラフを利用することを認識させたい。 ・関数において，表・式・グラフの関係性を理解し，問題に生かすことができるように，それらを利用して考える問題の演習に力を入れ，定着を図っていく。
資料の活用	・宇都宮市と本校を比較した場合，１．６ポイント下回っている。 ・近似値や中央値の意味を理解していないため，正答率が市より低い。	・言葉の意味を理解していない生徒が多いため，まずは意味を丁寧に指導していきたい。そこから資料の読みとりにつなげていけるよう，段階を踏んだ指導を行っていくことで，定着を図っていく。

宇都宮市立旭中学校 第２学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	61.3	61.6
	大地の成り立ちと変化	54.7	59.1
	動物の生活と生物の変遷	63.0	69.2
	化学変化と原子･分子	57.7	59.8
観点別	科学的な思考･表現	58.5	60.3
	観察･実験の技能	64.0	68.3
	自然事象についての知識･理解	58.1	61.8



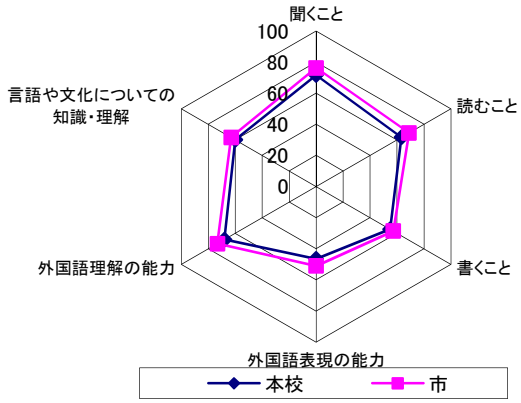
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	大気圧による現象の指摘についての知識は全国･市に比較すると多少理解している生徒が多いことがわかる。しかし、音の伝わり方、活用問題で思考の観点を見ると、モノコードでの音の条件や水中にある物体の浮力が深さと関係ないことが知識と結びついていないことがわかる。	･水の中にある物体にはたらく浮力は、深さが深くなっても変わらないことを授業の中で確認していく必要がある。 ･力と圧力については全体的に他の領域に比べて正答率が低いので、実験や問題演習などを丁寧に行い、理解を深められるよう指導に工夫が必要である。
大地の成り立ちと変化	火山岩のでき方については理解しているが、つくりの特徴やそれを産する火山の特徴については理解度が低い。また、地震計の記録を読みとる問題で震源からの距離や速度を求める計算は概ね理解できているが、基礎となる用途の理解度が低い。	･堆積岩と地層の学習内容に比べると、火成岩と火山については正答率がやや低い。火成岩の組織や成り立ちについては火成岩の観察や結晶の観察などを通してしっかり理解できるように支援する必要がある。
動物の生活と生物の変遷	脊椎動物の特徴については、国･市より7～9%正答率が高いが、細胞のつくりについておよそ30%も下回っている。	･動物の分類への関心や知識が高いところで、今後も関心を高めるような授業を心掛けたい。 ･細胞のつくりなど、実験を通して視覚的にうったえられるような授業をしていく必要がある。
化学変化と原子・分子	化学式や化学反応式については、国･市の平均に比べてやや高い。しかし、水の電気分解や酸化銅と炭素の酸化還元の実験では、実際にどのような結果が得られるのか、実験前の様子と実験後の結果とがうまく結び付けられないようである。	･水の電気分解、酸化還元の内容は授業の中で例を示しながら理解を深める工夫をする必要がある。

宇都宮市立旭中学校 第２学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	71.6	76.2
	読むこと	63.3	68.9
	書くこと	54.9	57.2
観点別	外国語表現の能力	46.5	51.0
	外国語理解の能力	68.1	73.4
	言語や文化についての知識・理解	60.0	63.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、4.6ポイント下回っている。特に対話の内容を聞き取り、資料をもとに答える問題ではその正答率が低く、市と比べても10ポイントも下回っていることが分かった	・今後も授業中、生徒ができるだけ英語に触れられるよう、たくさん英語を聴かせる。また、今後もまとまりのある英文を聞いて、内容を理解する練習を通常の授業の中に取り入れる。 ・ALTとの授業では、新しい文法の導入などで自然な会話のやりとりを通して、会話の内容を聞き取らせ、適切に応答できるように練習を重ねていく。
読むこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、5.6ポイント下回っている。特に長文の内容に関する質問に英語で答える問題ではその正答率が26.4ポイントと低く、市と比べて16.4ポイントも下回っていることが分かった	・今後も、教科書の本文以外の長文をどんどん読んで理解できるように、そのための時間を確保する。 ・読解には、単語力が何と言っても大切であるので、単語力の向上のために、単語テストを計画的に行っていく。
書くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、2.3ポイント下回っている。特に英語でたずねる文を書くことが苦手で、その正答率は27.8ポイントと低く、市と比べても9.1ポイントも下回っていることが分かった。	・単語を正しい語順に並べ替えた英作文、場面に応じて書く英作文などワークシートを作成して取り組ませたり、基本文のパターン練習を続けさせたりして、書く力を身につけさせたい。